

連結

売上高

9,600 億円
(前年同期比 +4.1%)



営業損益

519 億円
(前年同期比 △25.6%)



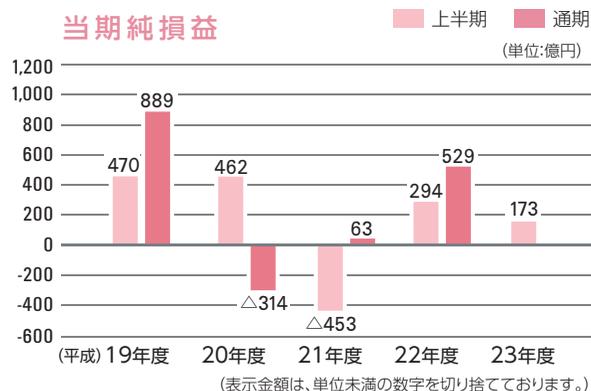
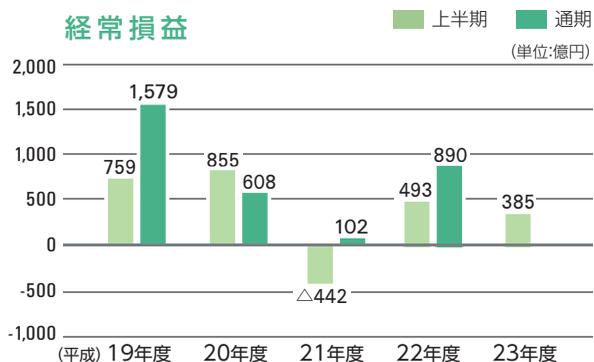
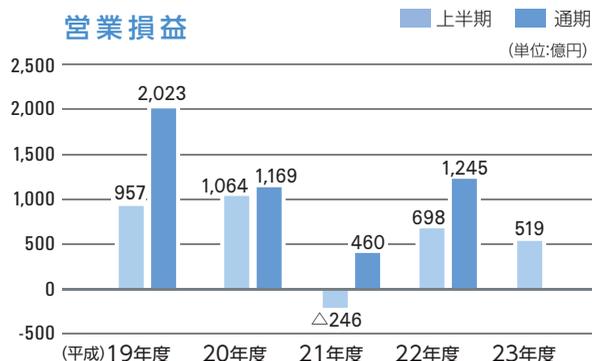
経常損益

385 億円
(前年同期比 △21.9%)



当期純損益

173 億円
(前年同期比 △41.1%)



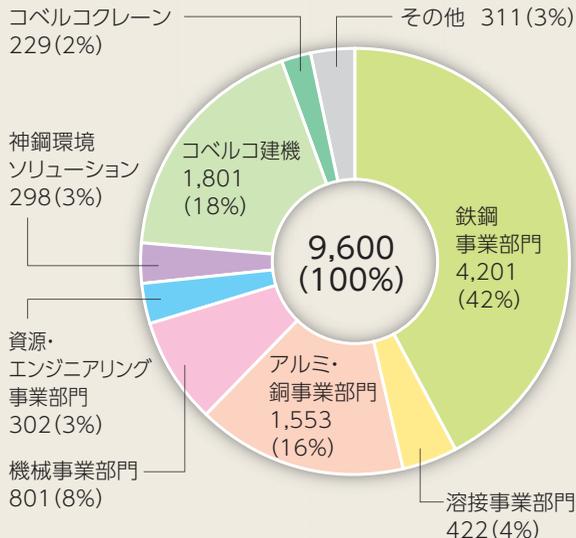
当上半期の概況

当上半期のわが国経済は、第1四半期に大幅な生産水準の低下をもたらした東日本大震災の影響が第2四半期には薄らぎ、回復に向かいましたが、円高の急進により、その基調は緩やかなものにとどまりました。海外では、欧州における金融不安や、中国における金融引き締めの影響が見られつつも、新興国を中心に緩やかな成長が持続しました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鋼材やアルミ圧延品の販売数量が、震災の影響により、自動車向けを中心に前年同期を下回りました。一方、中国における油圧ショベルの販売台数は、4月以降、金融引き締めの影響により需要が急激に減少したものの、春節明けの旺盛な需要を取り込んだことにより、当上半期を通しては、前年同期を上回りました。

以上のような状況に加え、機械事業部門や資源・エンジニアリング事業部門において大型案件の売上が集中したことや、鋼材価格が上昇したことなどにより、当上半期の売上高は、前年同期に比べ380億円増収の9,600億円となりました。一方、鋼材やアルミ圧延品販売数量の減少や鉄鋼原材料価格の上昇などの影響により、営業利益は、前年同期に比べ178億円減益の519億円、経常利益は、前年同期に比べ108億円減益の385億円、上半期の純利益は、前年同期に比べ120億円減益の173億円となりました。

事業別売上高(平成23年度上半期) (単位:億円)



(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額322億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額9,600億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



鉄鋼事業部門

4,201 億円
(前年同期比 +1.6%)



震災や円高の影響により鋼材の需要が低迷しました。

- 鋼材販売数量は、震災や海外市場の低迷、円高の影響で、前年同期を下回る。
- 鋼材販売価格は、原材料の高騰に対し製品価格への転嫁に努め前年同期を上回る。
- 造船向け販売価格の下落の影響などから鍛鋼品の売上高は前年同期比減少。

- チタン製品の売上高は、新興国のインフラ整備需要増加で前年同期比増加。
- 経常利益は、販売数量の減少や主原料価格の上昇により、前年同期比56億円減益の35億円。



厚板工場
粗圧延機



溶接事業部門

422 億円
(前年同期比 +13.8%)



溶接材料の需要が堅調に推移し、販売数量が増加しました。

- 溶接材料の販売数量は、東南アジア、欧米、ロシアの需要が堅調に推移し、前年同期比増加。
- 溶接システムの売上高は、中国の建設機械分野の需要が旺盛で前年同期比増加。
- 経常利益は、円高の影響から、前年同期比並の21億円。



アーク溶接ロボット
ARC MAN™-GS



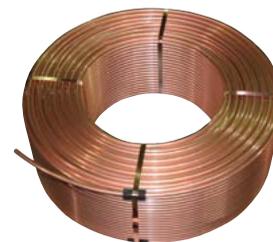
アルミ・銅事業部門

1,553 億円
(前年同期比 +0.2%)



銅管の販売数量は堅調も、アルミ圧延品、アルミ鋳鍛造品、銅板条の需要は低迷しました。

- アルミ圧延品販売数量、アルミ鋳鍛造品の売上高は、震災の影響による自動車向需要の低迷で、ともに前年同期比減少。
- 銅管の販売数量はエアコン向けを中心に堅調に推移するも、銅板条の販売数量は、半導体向け需要の低迷で減少。
- 経常利益は前年同期比27億円減益の70億円。



銅管のコイル



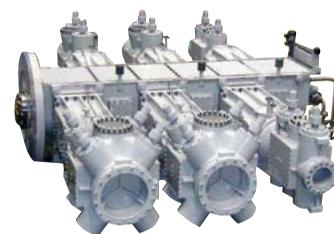
機械事業部門

801 億円
(前年同期比 +11.8%)



石油精製・石油化学業界向けなどの需要が堅調に推移しました。

- 石油精製・石油化学業界向けの圧縮機を中心に需要が堅調に推移。
- 当事業の受注高は前年同期比並の687億円。上半期末の受注残高は1,499億円。
- 経常利益は、前年同期比29億円減益の56億円。



大型往復圧縮機



資源・エンジニアリング 事業部門

302 億円

(前年同期比 +43.3%)



大型還元鉄プラントの売上の計上により売上高は増加するも、経常利益は減少しました。

- 受注高は大型還元鉄プラントを受注した前年同期と比べると、56.4%減の208億円。
- 当上半期末の受注残高は840億円。
- 経常利益は前年同期比8億円減益の6億円。



FASTMET®プロセスによる
製鉄ダストリサイクルプラント



神鋼環境 ソリューション

298 億円

(前年同期比 △0.6%)



廃棄物処理関連事業の大型案件を受注しました。

- 廃棄物処理関連事業の大型案件を受注し、受注高は前年同期比47.1%増の519億円。
- 上半期末の受注残高は571億円。
- アフターサービス分野需要の堅調な推移とコスト削減効果により、経常利益は前年同期に比べ2億円増益の14億円。



相模原市南清掃工場



コベルコ建機

1,801 億円

(前年同期比 +2.6%)



東南アジアや国内の販売台数が増加しました。

- 中国での販売台数は前年同期比増加も金融引き締め影響により需要は低迷。
- 需要が堅調な東南アジアや、震災からの復旧に関連して需要が増加した国内で、販売台数は前年同期を上回る。
- 円高の影響を受け、経常利益は前年同期並の185億円。



超小旋回ミニショベル
SAVER[SK38UR]



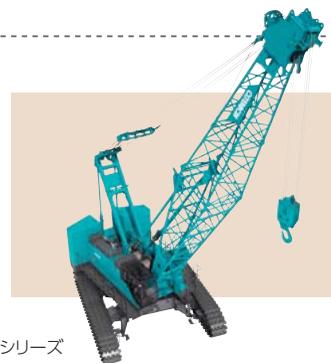
コベルコクレーン

229億円
(前年同期比 △1.7%)



海外需要が増加しました。

- 北米、東南アジア、中東を中心とした海外需要の増加に支えられ、販売台数は前年同期を上回る。
- 経常利益は、円高の影響により、前年同期並の1億円。



Mastertech Gシリーズ

etc

その他

311億円
(前年同期比 +3.0%)



分譲事業、賃貸事業がともに前年同期並で推移しました。

- 神鋼不動産(株)において、分譲事業、賃貸事業が概ね前年同期並の水準で推移。
- (株)コベルコ科研のターゲット事業で需要が低迷。
- 経常利益は、前年同期比5億円増益の26億円。



金属の微細構造を原子レベルで解析する3次元アトムプローブ装置



ジークレフ宝塚 武庫山

平成23年度(2011年度)連結業績見通し

	平成23年7月28日発表	平成23年10月31日発表	(参考) 平成22年度連結業績
売上高	1兆9,900億円	1兆9,500億円	1兆8,585億円
営業利益	750億円	750億円	1,245億円
経常利益	500億円	500億円	890億円
当期純利益	200億円	200億円	529億円
1株当たり当期純利益	6円66銭	6円66銭	17円63銭